

数学教室だより

日本大学理工学部数学科

日本大学には、1922年に設立された日本法律学校が基となる法学部はじめ14学部があります。そのうち、数学・数理情報関係の学科を有する学部は、理工学部（数学科，一般教育学科数学系列），文理学部（数学科，情報システム解析学科），生産工学部（数理情報工学科）などです。

日本大学理工学部数学科は、1959年に設置されました。現在数学科の入学定員は100名で、教員数は20名です。学部卒業生の大半は、コンピュータ関連の企業に就職しています。少子化に伴い、教職は非常に狭き門となっていますが、中学、高校の教員になることを目指して入学する学生が、現在も大半を占めています。今年度の博士課程（前期）学生数は32名、博士課程（後期）学生数は4名です。

理工学部は東京のど真ん中千代田区駿河台にある駿河台校舎と、まだまだ緑豊かな千葉県にある、広々とした船橋校舎からなっています。東葉高速鉄道（地下鉄東西線乗り入れ）船橋日大前駅と船橋校舎の正門は直結していて、両校舎間の行き来に不便はありません。

2005年数学会年会は理工学部駿河台校舎で開催されます。10年ほど以前に一度開催していますので、今回で2度目です。しかし何分不慣れな為、ご不便をおかけするかもしれません。会員諸賢のご協力を何卒お願いします。主な会場は2年前に新築された1号館となる予定です。大きくはないのですが、企画、設計、構造等にいろいろ工夫されています。数学会に参加された方は、その点も楽しんで頂ければと思っています。

定員100名の半数が付属高校、指定高校等からの推薦、残りの半数が一般入試、センター試験入試等で入学します。駿河台キャンパスは手狭なため、数学科一年生の授業は船橋校舎で行われ、二年生以降の授業は駿河台校舎で行われます。カリキュラムは純粋数学（代数学，解析学，幾何学）と応用数学（コンピュータ科学，数値解析等）の二本立てとなっています。学生数が多いので、微分積分学，線形代数学，ソフトウェア概論等の基礎的授業科目については、学生を二クラスに分け、きめの細かい教育が出来るよう配慮しています。入学時にノートブックパソコンを全員に貸与しコンピュータ関連の授業演習等に活用しています。またいち早くFACOMのリレー式電算機を導入するなど、学科設立当初から、コンピュータ教育に力を注いでいます。卒業研究は、5，6名程度の学生が各教員につきセミナー等を行っています。就職が厳しくなって以来、企業の説明会，会社訪問，n次試験，n次面接と言って、授業や卒業研究を欠席する学生が増え困っています。さらに教育実習の期間も延びて、4年生の前期は、まともな授業，卒業研究が出来ないという先生もいます。

数学科の図書室は、数学科創設の際、先輩方の尽力により、K. Knoppの蔵書を購入する機会を得、それを基に充実化を図り、現在に至っています。雑誌，蔵書共にかなり整備されていると自負しています。しかし、現在の状況と申しますと、近年の書籍，雑誌の異常な値上がり，さらには図書予算の減額，或いは情報関連予算への転化，電子ジャーナルにかかわる件など，問題が山積みです。

少子化に伴う入学志願者の減少は私たち私学にとっては、死活問題です。高校生や、

地域の人たちに、日大理工学部（数学科）をアピールする為、オープンキャンパス、駿河台入試フォーラムなどを催し、公開講義、ミニ講義などを行うなど、いろいろの対策を講じています。また、入試の多様化に伴う学生の学力格差、成績不良学生の増加も大きな問題となっています。入学してきた学生に対し、適切な教育を施し、また人格の陶冶を図り、数学を学んだ学生を社会に送り出す責任が我々教員に課せられています。とりわけ、大学の予算の大半を学生の授業料等で賄っている私学にとっては、なおさらのことです。学科あるいは各教員がいろいろと対応していますが十分とはいえません。よいアイデアお持ちの方いらっしゃいましたら、ご教示お願いします。

（文責：佐々木隆二）